

女川原子力発電所 2 号炉 指摘事項に対する回答一覧表
 (運転中の原子炉における格納容器破損防止対策の有効性評価)

No	分類	項目	審査 会合日	回答
1	指摘 事項	代替循環冷却系について、より効率的にドライウェル温度を低下させるための運用を検討すること。	H30. 6. 28	格納容器温度を効率的に低下させる方法について検討した結果、代替循環冷却系の設備変更を行い、原子炉注水及び格納容器スプレイの同時運用により格納容器除熱をする方法を採用する。
2	指摘 事項	格納容器内雰囲気酸素濃度について、検出器の特性を踏まえた上で、選定理由を整理して提示すること。	H30. 6. 28	酸素濃度計の各検出方式について共存ガスの影響、環境耐性、メンテナンス等の観点から評価し、熱磁気風式酸素濃度検出器を重大事故等対処設備として選定している。
3	指摘 事項	原子炉格納容器の漏えい率検査において漏えいが発生する原因を工学的に整理して提示すること。	H30. 6. 28	原子炉格納容器全体漏えい率検査において確認される漏えいは、シール部における個別の箇所が生じている微小な漏えいが全て合算されること及び原子炉格納容器隔離弁の経年変化が主な要因と考えられるが、適切な保全を実施した上で検査を実施することで原子炉格納容器の気密性は担保される。
4	指摘 事項	格納容器過圧・過温破損（代替循環冷却系を使用できない場合）について、実際の対応手順を踏まえた上で、ベースケースとすべき評価条件を再度検討して提示すること。	H30. 7. 5	実際の運用に即した解析とするため、原子炉格納容器フィルタベント系による格納容器除熱開始時間を設定し、解析条件に反映する。
5	指摘 事項	要員の線量評価の説明を再検討し弁手動操作のフローを説明すること（中操でベントのボタンを押すタイミングとベント操作開始のタイミングの一致性の有無等）。	H27. 7. 21	炉心損傷後の原子炉格納容器フィルタベント系による格納容器除熱は、外部水源注水量限界到達後速やかに中央制御室からの遠隔操作により開始する。有効性評価の解析における格納容器除熱開始時間を変更したことから Cs-137 放出量評価についても同様の評価条件に変更した。

No	分類	項目	審査 会合日	回答
6	指摘 事項	外部注水量限界到達までの管理方法及び信頼性について、整理して提示すること。	H30.7.5	外部水源注水量の管理方法として、「サプレッションプールの水位計を用いた注水量の管理」を優先し、サプレッションプール水位を確認できない場合に「外部水源を用いた注水量の積算による管理」を行う。
7	指摘 事項	燃料評価条件を定格負荷に見直したことによる、要員、手順等への影響について、すべての事故シーケンスを対象に整理して提示すること。	H31.1.22	資源（燃料）評価における非常用ディーゼル発電機等の負荷想定について、重大事故等時に必要な想定負荷から各発電機の定格負荷に見直しを実施した。合わせて軽油タンクとガスタービン発電設備軽油タンク間の燃料補給作業を追加した。
8	指摘 事項	コリウムシールドについて、耐熱材の性質を踏まえた上で、材料選定の考え方を整理して提示すること。	H30.7.26	コリウムシールドの設置目的及びその達成手段を考慮し、耐侵食性の候補材の中から、最も耐侵食性に優れたジルコニアをコリウムシールドの材料として選定している。